

普通科高校の学区拡大に反対する私たちのアピール

兵庫県教育委員会は、2012年1月6日、高校普通科の学区を現在の16学区から5学区に拡大し、2015年(現在の小学校6年生の高校入試)から実施するという基本方針を決定しました。たくさんの県民や県下の市町から出された反対意見、数々の疑問・不安にこたえることなく、問題をすべて先送りし、5学区への拡大だけを決めてしまいました。大変拙速で乱暴な決め方といわざるを得ません。私たちは5学区への拡大に反対し、決定を白紙に戻し、再度慎重な検討を求めます。

県教育委員会や検討委員会が示した学区拡大方針に対し、県下41市町議会のうち24の議会で反対または慎重な審議を求める意見書が可決されました。また、神戸新聞が行った各地の教育長へのアンケートでは反対が賛成を大きく上まわり、さらに各地で実施された説明会やパブリック・コメントでも反対や疑問の声が続出しました。

パブリック・コメント(2,362人、4,180件)には遠距離通学と経済的な負担の増(1,076件)、受験競争の激化と一部の生徒へのしわ寄せ(885件)、高校統廃合と郡部の過疎化(480件)などを心配する、反対・批判・不安の声が集中しました。

「受験競争がさらに激化するだけでなく、生徒たちは地元高校への進学が難しくなり、遠距離通学を余儀なくされます」(養父市議会)、「『学校選択の自由』を建前に『競争の教育』によりいっそう拍車がかかる」(西脇市議会)、「『地域の子どもは地域で育てる』という理念が尊重されるべき」(姫路市議会)、「高等学校の統廃合が行われ、郡部の人口流出がさらに進み、地域活性化という大きな国家的課題まで阻害される」(上郡町議会)など、各議会からの意見は地域住民の総意を示すものであり決して軽視されてはなりません。

学区を拡大して、子どもたち、高校間の競争を強化すれば、学力が高まるとする主張は誤りです。そもそも欧米諸国には、もっぱらテストの点数で進学先を決める日本のような「高校受検」はほとんどありません。「競争こそ学力を伸ばす最善の方法だ」という考え方は、世界的にはすでに時代後れとされており、実際、学力世界一と注目をあびるフィンランドにも、テストの点数や偏差値で高校の間に序列をつくるしくみはありません。

反対に、「競争の教育」によって、学ぶこと本来の楽しさを味わうことができなくなっているために、多くの子どもが高校受検が近づくにつれて、「学び」から逃走せずにおれなくなっているのが現実です。

現在の教育をめぐる諸問題は、こうしたそもそも論に立ち返って考える必要があると思います。また、全国の事例を見ても、学区拡大は必ず高校統廃合につながります。それが地域社会に深刻な影響を及ぼすこともよくよく慎重に考慮されるべきです。

兵庫県や教育委員会のみなさんには、以上の諸点をもう一度、冷静に検討していただきたいと思います。同時に、県民のみなさんにはあらためて、すべての高校生に豊かな学びを保障する、学校や教育のあり方を考える機会をもっていただくことを心から呼びかけたいと思います。

2012年1月23日

呼びかけ人

石川康宏(神戸女学院大学教授)

二宮厚美(神戸大学教授)

船寄俊雄(神戸大学教授)

「普通科高校の学区拡大に反対する私たちのアピール」に賛同します。

役職・肩書 _____

お名前 _____ 印

賛同者であると、お名前を出してよいでしょうか。(よい ・ 困る)

取り扱い団体 兵庫県高等学校教職員組合